

# 将ぎ頭山～木曾駒ヶ岳登山

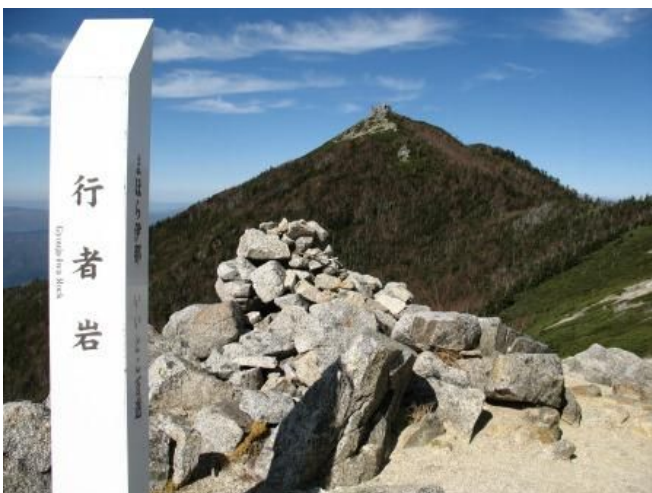
2009.1023～24 単独

前々から歩きたいコースでした。木曾駒ヶ岳はロープウェイで簡単に登れるのですが、今でも伊那地方の学校登山が利用する「西駒山荘」、変わった名前の「将ぎ頭山」、新田次郎の小説「聖職の碑」など気になる場所があるせいです。やっと実現しました。

10/23 (金) 晴れ 4:45～伊那IC経由～6:35 桂木場登山口 6:55～8:05 野田場～8:20 横山登山口からの道と合流～8:33 権兵衛峠分岐～8:50 馬返し先の奈良井宿、白川方面への分岐～9:05 大樽避難小屋 9:15～9:25 信大ルート分岐～10:45 胴突の頭 11:00～11:35 将ぎ頭山(2730M、日本山岳標高ベスト84位) 11:40～11:45 西駒山荘 12:20～聖職の碑～13:00 8合目分岐～14:25 木曾駒ヶ岳(2956M、日本百名山) 14:58～15:03 頂上木曾小屋(泊)

2:20に目が覚めてしまい寝不足で出発する。登山口へ行くのに道迷いする。登山口には車が2台停まっている。ゆるい登りの整備された登山道である。学校登山に利用されるせいと思う。熊笹と唐松林が続く。野田場で水を補給。横山ルートは熊笹のヤブになっている。利用者がいないのだろう。昭文社の山地図は「実線」の登山道になっているが。逆に地図に載っていない権兵衛峠へのルートや奈良井、白川ルートはシッカリ道がついている。常日頃不満に思っているが、昭文社は毎年地図を更新しているのだから(2009年度版と)買わせるためでなく、地図も加除訂正、加筆すべきだ。それは人命にかかわる山地図を商売にする会社の使命だ。執筆者も連帯責任を感じるべきだ。大樽避難小屋を覗く。板張り土間の広々とした小屋でトイレもある。水場への道もついていた。信大ルートは細いが帰路に歩きたい道だ。胴突の頭からの展望も素晴らしい。ザックを下ろして展望を楽しむ。特に目の前の行者岩、北・南アルプス、御嶽山。将ぎ頭山山頂の展望も素晴らしい。西駒山荘で昼食。こじんまりした小屋で閉鎖中も避難小屋として一部開放している。水場もすぐ下にある。小屋から先は数日前の降雪で所所に雪があり、8合目からは登山道も完全に1～3CMの雪道になっている。「聖職の碑」は大きな石の遭難記念碑である。「慰霊碑」ではなく「記念碑」でなければならぬと本には経緯が書かれているようだ。山頂までに会った人は将ぎ頭山日帰り登山の単独行一人だけだった。天気良し、陽気も良し、展望も良しのルンルンで山頂着。

行者岩です、明日登ります



将棋頭山から御嶽山を望む



聖職の碑、遭難記念碑



木曾駒ヶ岳山頂



さすが百名山、10人位いる。経ヶ岳が大きい。南ア全部、聖、塩見は風格ないが、北岳が雄大。北アは乗鞍（風格なし）～笠ヶ岳～穂高～槍ヶ岳。御嶽山は常に立派だ。恵那山も大きい。見る場所により品位、風格も変わるものだ。小屋は古い建物で、木曾のおじさんが一人でまかっていた。泊り客も4人のみ。時期柄朝晩は冷える。朝、小屋の水槽が凍っていた。

10/24 (土) 晴れ 7:10～7:55 宝剣山荘 8:00～8:35 宮田高原ルート分岐～9:10 濃ヶ池 9:20～9:35 8合目分岐～10:10 西駒山荘 10:50～11:10 茶臼山分岐～11:25 行者岩～11:35 茶臼山 (2653M、塩尻市最高峰) 11:45～12:07 分岐 13:05 信大ルート分岐 13:10～13:20 大樽小屋 13:25～13:43 奈良井、白川分岐～13:49 権兵衛峠分岐～15:10 桂木場登山口 15:25～17:08 自宅 (総走行 187KM)

伊那西岳、南アルプス、中央富士山



右は三の沢岳、左は宝剣岳、奥は空木岳方面



朝は冷えるしユックリ出発。同じ道は通りたくないし、濃ヶ池を見たいし、宝剣山荘経由で下山。宝剣、三の沢岳、空木などが見える。宝剣山荘付近には土曜日でロープウェイの運転開始が早いせいとか、次々と観光客や登山者がやってくる。伊那前岳は積雪で真っ白だ。私一人孤独な山道を下る。恐らく今日も会う人は少ないだろう。濃ヶ池で逆さ宝剣岳を撮る。夏は高山植物が多いと思う。



茶臼山山頂



濃ヶ池の逆さ宝剣岳



西駒山荘



西駒山荘の冬季小屋で早昼を食べる。小奇麗でテーブルや座る所があり助かる。山小屋の宿泊料が高くなっているの、こんな小屋で泊まって、金の掛からない登山も今後は良いかも。南アルプス早川尾根の早川尾根小屋も10月中旬には営業をやめて無料開放している。あそこも水場があるし。皆さん如何ですか？

昨日眺めた行者岩と茶臼山に向かう。道は細いがシッカリしている。茶臼山は日本百高地には14M足りないせいか知名度の無い山で可愛そうだが山頂はそれを慰めるように飾りもある。登山道は木曾駒高原スキー場経由で日義村に下山できる。「正沢川つり橋、増水時注意。木曾遭難対策協日義班」と書かれた看板がある。今回の山行ではそんな「ローカル」な渋い登山道を幾つか見た。奇特的な山好きの人達がボランティアで整備しているのだろう。権兵衛峠への分岐にも「塩尻市木曾平沢 2174 ジャンボカラマツ保存会」名の案内板があった。いずれの道も「昭文社の実線」の登山道よりも立派であった。

信大ルート分岐



大樽避難小屋



奈良井宿・白川方面。整備良好です



信大ルートの分岐で歩いてみようか?と思ったが辞めた。気が小さくて、歳をとって保守的になったせいかもしれない。同じ道は歩きたくない者にとっては落第だ。下山途中で2組のパーティーと会った。やはり土曜日だ。ただ時間的に遅いのもしかしたら「西駒山荘」泊かも。お天気にも恵まれて、自由気ままに「単独行」を楽しみました。